

令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年2月17日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
規範意識を高め、自他を大切に育む。【心をみがぐ子】	・自他を大切に育む	・規範意識や思いやりの心を育成する体験活動を計画的・継続的に推進する。 《学校行事、異学年交流、学級活動の様子》	A	A	・道徳の授業やお話タイムで、話すこと・聞くことを意識して授業展開をすることで、質問して理解を深めようとしたり、自信をもって考えを話したりする子が増えた。 ・なかよし班活動では、異学年交流の経験が少ない子どもたちに、多様な他者や集団にふれる機会を経験させることができ、規範意識や思いやりの心を育成する土台作りができた。	B	・他者の意見を聞く力は社会性を身につける上でも大切。お話タイム・なかよし班、特技発表会などの活動はよい。 ・自己肯定感はある中でどのように育てていくかという視点で、自分のよいところを見つけていけるよう引き続き指導してほしい。	・こども園、保育園との交流を、さらに増やしていく。 ・ペアやグループ、全体へと段階的に伝える経験を積めるようにし、すべての子にとって自分事になって考える道徳の授業づくりをしていく。 ・自他を認める活動を計画的・継続的にを行い、自己肯定感を高め、子どもたちが温かな心を育む土台作りを積み重ねる。
	・自尊感情の高揚と他者理解	・自分の考えをすすんで伝え、相手の考えを尊重して聞こうとする意欲を高める。 《道徳授業やお話タイム等の観察やふりかえり》	A					
学ぶ意欲を高め、一人一人のよさを伸ばす。【頭をみがぐ子】	・自ら学ぶ態度の育成	・タブレット端末を活用し、協働学習や習熟の程度に応じた学習に取り組む意欲と技能を高める。 《授業や課題への取り組みの様子》 ・基礎基本の定着を図る。 《やればできるテストの成果の分析》	B	A	・「やればできるテスト」に向けての課題プリントやタブレットのドリルなどで反復練習することで、基礎学力が定着した。 ・高学年は、家庭学習カードを用いて、やるべきことを自分で計画し取り組んだ。課題の提出日やテストに向け、計画的に学習を進められる児童が増えてきた。 ・さまざまな教科で、タブレット端末活用のよさを、感じる事ができた。	B	・自分で計画を立てて取り組む学習はよい。保護者にも取り組み状況を情報共有してほしい。 ・タブレット学習がうまく活用できている。同学年で習熟度に差が出ないように推進を図ってほしい。	・AIドリルの活用を増やして、個別最適な学力を自ら選んで進める体制を作り、基礎基本の定着を図る。 ・情報モラル学習を適切に行い、節度ある使い方を身につけつつ、より子どもたちが自由に使える環境を整えていく。 ・体験的な活動を継続し、子ども自ら問題意識をもったり、興味がわいたりするような単元構成に努める。
	・問題解決力の育成	・自分で課題を設定し、体験や調べ学習を工夫し、学習を深める力を育む。 《調べ学習の様子》 ・自分の言葉で考えを伝え、よりよい考え方を追究できる力を育む。 《授業実践の振り返り》	A					
自分の「いのち」は自分で守ろうとする意識を育てる。【体をみがぐ子】	・生活安全の徹底	・地域や保護者と連携し、心身の健康保持に必要な基本的な習慣を育成する。 《生活状況の観察》	B	B	・元気アップカードやメディアチャレを通して生活改善を呼びかけたことで、保護者と連携を図りながら、生活習慣の育成を行えた。 ・体育的行事では、自分や学級の目標を設定することで、休み時間に子どもどうして声をかけ合って意欲的に練習する姿も見られた。 ・体育の授業では、ワークシートを活用して運動意欲を高めることができた。	A	・生活習慣の育成は家庭との連携が必要。保護者の協力が得られるように積極的な取り組みをしてほしい。 ・専任トレーナーから練習のこつを教えられたり、動画で自分の動きを見返したりするなど、意欲向上につながっている。よい。	・元気アップカードやメディアチャレの結果を授業でも取り上げ、基本的な生活習慣の育成を旨とする。 ・個に応じた対応と学年全体に対する指導、子どもが互いに声をかける関係をつくっていく。ランフェスやなわフェスを継続する。 ・タブレットを有効活用し、運動が苦手な子どももまなながら、子どもどうして技能を高め合える授業づくりを考えていく。
	・健康でたくましい体の育成	・体育授業と学校行事の連携、外遊びの奨励により、基礎的な体力と運動意欲の向上を図る。 《取り組みの状況や成果の分析》	A					
「常に子どもが主体」の理念のもと、地域や子どもと共に成長する教職員集団をめざす。	・教職員の専門性の向上と業務改善	・働き方改革の視点による業務改善に取り組みながら、各自の専門性を高める研修を推進する。 《研修による資質向上》 《ICT等を活用した業務改善の状況》	A	A	・学年でICTを積極的に活用し、その有効性について話し合った。ノートの回収・点検の業務効率が上がった。 ・授業ボランティアにより、保護者との連携を図った効果的な学習場面を作ることができた。 ・校外学習では付き添いボランティアを依頼し、子どもの安全を守るとともに、保護者の教育活動への理解を図ることができた。	A	・教員自身が健やかな状態が子どもたちの教育に重要である。業務効率・学習内容の向上を常に意識して時代の変化に対応してほしい。 ・ボランティア活動は、有意義な活動なので、継続的に推進してほしい。	・ICTのよりよい活用方法を研修等で習得し、授業や業務に生かしていく。 ・必要な業務を洗い出し、教員が心身ともに健康な状態で子どもたちに向き合えるように業務改善を図っていく。 ・地域や保護者との連携がより密にできるように学校側からの呼びかけの工夫をし、授業の中で地域のかたにボランティアで参加してもらおう機会を考えていく。
	・地域や保護者との連携の推進	・教育活動を伝えるために、定期的に情報を発信する。 《HPやメール等による情報発信》 ・懇談会の設定やボランティアの依頼により、教育活動への理解を図る。 《各行事への参加の様子》	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】